

第3回（仮称）地域活性化発信交流拠点整備計画策定検討委員会 議事録

1. 日 時：令和7年10月23日（木）午前10時00分 ～ 正午
2. 場 所：三芳町役場3階301会議室
3. 出席者：八木信行委員、伊藤徹哉委員、有村誠委員、鈴木徹委員、
悦岡委員（代理）
岡崎優（オブザーバー）、中島豪誠（オブザーバー）、
事務局 三芳町 神森総合調整幹 道路交通課 若林課長
古寺主幹 金子主事
受託事業者 三井共同建設コンサルタント株式会社
4. 傍聴の可否について
検討委員会の傍聴を可とする。傍聴者 3名
5. 議 事：（1）第1回検討委員会の振り返り
（2）サウンディング調査について
（3）導入機能・配置計画（案）について
（4）事業手法・事業採算性・概算事業費について
（5）その他
6. 議事内容
【議事（1）について】
第1回検討委員会について、説明し、質疑や意見の有無を確認。
・特になし

【議事（2）について】
サウンディング調査の結果について、説明し、質疑や意見の有無を確認。
・事業への興味について、各社から前向きな意見が示されているものの、最終的な事業者の決定は事業者公募によることを明記することが望ましい。
・配置について、C社より「イベントなど多様な使い方ができるような配置」を望む意見があるが、実際にどのような配置が想定されるのか。
→多目的広場には、キッチンカー等が安全に乗り入れ可能な配置などを想定している。
・サウンディング調査結果まとめについて、相手の発言意図を表現するには「世界農業遺産の発信だけに限らず」という表現より「世界農業遺産の教育的側面の発信だけに限らず」とした方が発言意図が伝わるのではないかと。
・複数社より、子育て支援機能の導入を望む意見があるが、本拠点においてはどのように導入していくのか。
→子育て支援機能について、屋内外への施設導入を想定している。

（次ページに続く）

【議事（３）について】

導入機能・配置計画（案）について説明し、質疑や意見の有無を確認。

また、配置計画（案）は今後参入事業者の提案による変更の可能性がある旨を説明。

- ・交通ネットワークの車両導線について、供用開始後に、渋滞の発生が懸念されるため、慎重な検討が必要である。
- ・EVステーションについて、もう少し多くてもいいかもしれない。
また、多目的広場の横に配置した場合、用途外の利用が想定されるため、多目的広場や地域振興施設から離れた位置への配置が望ましい。
- ・一部、施設が24時間の利用が可能とあるが、車中泊の取り扱いや、駐車場での乗り合わせ行為等への対処を事前に検討する必要がある。
- ・車中泊ができる施設とするのか
→休憩施設のため休憩という使い方を想定している。
- ・農地から強風で土埃が飛散する際、堆積が予想されるため、対策が必要である。
- ・ミュージアムの「町の体験コーナー」はどんなものをイメージしているか
→藍染、勾玉づくり、落ち葉堆肥農法を感じる体験などを想定している。
- ・道の駅の名前はいつ決めるのか
→建設から完成までの間で決めている場合が多い。

【議事（４）について】

事業手法・事業採算性・概算事業費について説明し、質疑や意見の有無を確認。

- ・本拠点の土地及び建物の所有者は、三芳町もしくは民間事業者のどちらとなるのか。
→三芳町の所有となる。
- ・事業採算性を得るために、誰でも行きやすく、利用しやすい施設整備を検討していく必要がある。
- ・事業手法としては、最近の事例ではDB0方式が多く採用されていることから、妥当と思われる。

【議事（５）について】

- ・今後のスケジュールについて、第４回検討委員会は令和７年１２月２５日（木）を予定している。

以上